

# 大人しそうな巫子さんに催眠かけて アへるまで強制らぶらぶえっち♡

カオティックちくわ

## //トラック1

SE: 鳥のさえずり

SE: ほうきで掃く音

「はあ……朝の陽ざしが気持ち良いですね……お掃除しながら寝てしまいそうです」

「……なんて、いけません！ 私は由緒正しき神社の巫女なんですから。  
今日もしっかりお勤めしないとです！」

SE: 砂利を踏み近づいてくる

「あ、和菓子屋のおじいさま、おはようございます！  
腰の調子はいかがですか？」

「むむう……あまり良くない、ですか。それでは、しっかりお祈りをしますね」

「おじいさまの腰が、早く良くなりますように……。はい、しっかりご祈禱しました！」

「いえいえ、巫女として当然のことです！  
おじいさまには小さなころから可愛がってもらっていますし」

「お礼におまんじゅうを……？ うわあい！ 嬉しいです！  
お勤め中ですが、食べちゃいたいです……うう……！」

「あのう……お父様には内緒にしてくださいね？  
いったっきままず……あむっ……むぐむぐ……んん～！」

「やっぱりおじいさまの作るおまんじゅうは  
町内一……いえ、日本一です！」

「え……もうお仕事に戻るんですか？ くれぐれも無理しないでくださいね。  
お勤めが終わったら、和菓子買いに行きますから」

「はい、それではお大事にです！  
あ、ごちそうさまでした～！」

SE: 砂利を踏みつけ遠のいていく

「残ったおまんじゅうも……あむっ。むぐむぐ……ごっくん。  
はう～……幸せです……」

SE:砂利を踏みながら近づいてくる音

「あ、おはようございます！  
あまりお見掛けしない方ですね……本日はどうされましたか？」

「ご祈祷ですね、かしこまりました。  
交通安全、家内安全、商売繁盛……その他いろいろ受け付けております！」

「安産祈願……？ もちろんございますが……  
……男性の方のみで受けられるのは珍しいですね」

「あ、いえ……！ 男性のみでも可能ですよ。  
奥様のために、ですかね？ 素敵な旦那様です！」

「それでは受付にご案内いたします。こちらへどうぞ！」  
……人目につかないところで受けたい？ ど、どういうことでしょうか？」

「……何か特別な事情がおりなんですね。  
あの林の中の奥で……？ わ、わかりました、参りましょう」

(若干の時間経過)

SE:森っぽい音(鳥のさえずりも聞こえる)  
SE:土を踏む音

「……ふう。この辺りでいかがでしょうか？」

「はい、ほとんど人は来ないです。  
声や物音もあちらの方には聞こえないみたいで……落ち着いてお話が出来ますよ」

(おちんちんは恥ずかしそうにハッキリとは言わず)  
「それで、いかがいたしましょうか？  
……え……おちん……ちんに、直接、お祈りしてほしい……？」

「え、えっと……そのような安産祈願は、その……！  
あの、奥様も悲しまれると思いますし……！」

「奥様は……いらっしゃらない？  
ええと……どういう……？ 近い将来のために……？ ふええ……？」

(独り言で焦っている)

「ううう……どうしよう、どうすればいいんでしょう……？  
私ったら、まだ修行が足りないです……！」

SE:指パッチン  
SE:もやもや～という不思議な音(催眠)

(以下、催眠にかかっている)

「つつ……！」

「……これより、おちんちんをしごきながらの……いやらしいお祈りを始めます……  
早速ズボンを脱がせますね……」

SE: ベルトカチャカチャ

SE: チャックを降ろす

「はあ……はあ……もう大きくなっています……  
パンツを突き破りそうですよ……」

「すでに孕ませ精子は十分詰まっていそうですが……  
巫女としてお力添えして、より強力なモノに致します……」

「私の手で、握って……んんっ、熱い……火傷してしまいそうです……  
では、上下に擦りますね……んっ、んんっ……」

「ふえ……？ 巫女が下品な言葉をかけながら……シコシコすれば……  
もっと強力的に、祈りは届くのですか……？ わかりましたあ……」

「あふっ……手の中で、暴れて……はあ……ううっ……  
いいにしてください……そうじゃないと……お祈りできないですう……」

「はああっ……んんっ……まだ、グングン膨らんでいきますよおっ……  
んんっ、すごいですねっ……んっ、んんっ……」

「んっ……んんっ……先端から、お汁が出て来ました……！  
これは、精子では、ありませんよねっ……？」

「我慢汁……というのですか……はうっ……んんっ……  
すんすん……んはあ……いやらしい香り……んっ、はあっ……」

「少し、味を確かめてみましょう……ふふっ……このお汁……  
指で触ると、糸をひきますね……ぺろっ……んっ……少ししょっぱいです……」

「この中にも、少し精子が入っている可能性があるのですか……？  
ふあああ……おちんちんって、不思議なんですね……」

「では、この我慢汁を使って……シコシコの刺激を、変えていきましょう……。  
まずは、掌に……んっ……先端をくるくる擦り付けて、お汁をつけますよ……」

「くる……くる……あんっ……おちんおちんぴくぴく震えて……  
お汁もダラダラ溢れてきてます……」

「あふ……私の掌、べとべとになってしまいました……うふふっ……

では、これでまた棒のところを握って……」

「んっ、んんっ……どうですかあ……？  
気持ち良い、でしょうか……？ んっ、はあっ……んんっ……」

「ああ……うっとりしています……  
濃厚な精子を放出しそうな表情ですね……んっ、んんっ……」

「はあっ……んっ……元気な赤ちゃんができますようにっ……  
いっぱい……お祈りを込めて……もっよシコシコ、しますっ……」

「はっ、んっ……孕ませ精子っ、たくさんぴゅっぴゅできますように……  
はあっ、んっ、んっ……」

「出そうですかっ……？ いいですよっ……  
どのような精子が出るか、一緒に確認しましょうっ……」

(射精に向けて一気に手の動きが早くなる)

「んっ、んっ……はあっ、はあっ、おちんちん、手の中で硬くっ……  
はあっ、はあっ……さあっ、思いつきりっ……んんんんんっ……！」

SE:射精

「はあうううっ……！」

「はあー……はああー……真っ白で、濃くて……濃厚な精子です……！  
オスのにおいもむわむわして……はあああ……♡」

「私の顔まで飛んできて……べとべとになっちゃいましたあ……  
んんっ……ぺろっ、ぺちゃ……我慢汁とはまた違う味ですね……」

「えへへ……とっても美味しいですよお……  
全部舐めとって、飲み干してしまいたいくらいですう……♡」

「は一……こんなに大量に出したのに……まだ、いきりたっていますよお……  
すさまじいおちんちんですね……♡」

「では、この後は……祈りがしっかり届いたかどうかを、  
私のおまんこで確かめてみましょう……」

「さあ、仰向けになってください……  
私が跨って、たくましいおちんちんと精子……しっかり飲み込みますから……」

SE:体勢を変える音(土を踏みしめるような)

「はああ……はあ……パンツを脱ぐので、待ってくださいね……」

ひゃ、んんっ...パンツに何か液体がついて.....糸を引いてます.....！」

「私からも、我慢汁が出るのでしょうか.....？  
.....ふえ？ これは、愛液というのですか？」

「おまんこが、おちんちんを受け入れるための体液.....  
ふああ.....私の体も、子作りできるようになっているんですね.....」

「なんだか、恥ずかしいです.....でも、はやく、したい.....  
これがムラムラなんでしょう.....」

「んんっ.....もう我慢できません.....！  
それでは、入れちゃいます.....♡」

「んんっ、んっ、太くて、かたあいつ.....はうっ.....  
なかなか、入りませんっ.....ん、ううっ.....んあああああっ！」

（一瞬正気に戻ろうとする）

「っ！？ っっ.....ううっ、あれっ.....？ 私、何して.....  
あそこが、っじんじん、するっ.....くっ、うう.....」

SE: 指パッチン  
SE: ぼわぼわとした音

（再度催眠にかかる）

「はあうっ.....そうでした.....子作りの実践中でしたね.....  
うふふっ、私ったら.....はあ、んっ.....」

「ほら.....あっという間に、根元まで飲み込んでしまいましたよ.....  
見えますか.....？ 私のおまんこあなたのおちんちんが、繋がっています.....」

「んっ、はあっ.....一緒に、目いっぱい気持ち良くなって.....  
子作りセックス、堪能しましょうねっ.....はあっ、ああっ.....」

「それじゃあ、動かしていきますっ.....  
あっ.....んっ、んっ、はあんっ、ああっ.....あんっ.....」

「いかがですかっ.....処女巫女のおまんこっ.....んっ、はあっ.....  
キツキツで、んっ、いつでも射精しちやいそう、ですか？」

「嬉しいですっ.....お役に立ててっ、んっ、はあっ.....  
巫女服を着たままのっ.....神聖なのに下品な子作りセックス、味わってくださいっ.....」

「あっ、あんっ.....んんっ.....ふ、ああっ、あんっ.....♡  
んっ、ん、ああっ.....あ、あああうっ.....んっ.....」

「はしたない声っ……いっぱい出ちゃいますっ……んっ、ああっ……  
自分で腰を動かしながら、あっ、初めてのエッチで、っふ、気持ち良くなるなんてっ……」

「はぁんっ、んっ、あうっ、んんっ……腰、止まりませんっ……  
あっ、あんっ……はううっ、おちんちんっ、もっと、欲しいですうっ……！」

「あっ、くうっ……んっ、んんっ、あ、ぁんっ！  
パンパンって、音っ……林の中に響いてっ、んっ、はぁあっ」

「これえっ、私、クセになっちゃいますうっ……  
このおちんちんで、一生……何度でも、子作りしたいですうっ……♡」

「んっ、はぁっ、あんっ、あんっ……んう、んんっ、はぁっ、あんっ！  
あううっ、私っ……イっちゃいそうっ、んっ、ぁあっ、あんっ！」

「あなたも、出ちゃいそうですかぁっ……？  
あんっ、はぁっ、ではっ、同時にイきましょうっ……！」

「絶頂びくびくおまんこでっ……は、ぁあ、あっ！  
精子い、あっ、いっぱい搾り取ってっ……んんっ、子宮の奥まで飲み込みますからあっ！」

「思いつき、射精してくださいっ！ あっ、あんっ、んっ！  
ふぁああっ、ん、く、ううっ！ イクっ！ イキますううっ！」

SE: 射精

「んっはぁぁぁぁぁぁぁぁぁあっ……！」

「あふうっ……はぁっ……んんっ……  
奥にっ……熱いのっ……ドクドク注ぎ込まれてますううっ……んんんっ……」

「はぁっ、はぁーっ……♡  
中イキ中出しセックス……きもちよすぎてええっ……ぁあっ、はぁあっ……♡」

「おまんこ、キュンキュンしてええっ……絶頂の余韻が……まだ……んんっ♡」

SE: おちんちん抜く音

「んふぁあっ……ぁあっ……ぬぶって、抜けました……  
はぁ……はぁあ……見て下さい……濃厚な精子……いっぱい溢れてきましたぁ……♡」

「間違いなく……安産祈願成功ですね……♡ えへへ……♡」

SE: 土を踏む音(体勢変更)

「あふっ……んんっ……いかがでしたか？  
……ご満足いただけようで、良かったです……私も、夢中になってしまいました……♡」

「またいつでも安産祈願に、お越しくさいね……♡」

SE: 指パッチン

SE: 催眠解ける音

(催眠、解ける)

「……あ、あれ……？ 私、ここで何を……？」

「安産祈願を、していた……？」

そう、ですか……ええと……お祈りは、もう終わったんですか……？」

(以下、独り言っぽく)

「どうして、こんなところで……それに、記憶が……

っんん、お腹の中、なんだか熱い……それに、お股もなんだか、変……」

「あ、あの……もう戻っても、大丈夫でしょうか？」

それでは、失礼いたしますっ……」

SE: 土を踏みしめて走る音がフェードアウトしていく

## IIトラック2

SE: 鳥のさえずり

SE: ほうきで掃く音

「うう……まだ、お股がじんじんする……」

「昨日、パンツに血と白いのが滲んでたけど……  
それと関係があるのかな？ あうう、何かの病気だったらどうしよう……」

SE: 砂利を踏みながら近づいてくる音

「っ……あなたは……！  
……今日も、同じお祈りを受けたいのですか……？」

「あの……つかぬ事をお聞きしますが、  
本当に、安産祈願だけが目的なのでしょうか……」

「えっと……昨日、林の中に入ってから記憶が曖昧で……  
失礼を承知で、つい……」

「教えてください。あの時、一体何が……」

SE: 指パッチン

SE: 洗脳

「つつ……」

「では……今日も子作りをいたしましょう……♡」

「さあ、私の手を取って……  
たくさん愛し合いましょうね……えへへ♡」

(若干の時間経過)

SE: 森っぽい音(鳥のさえずりも聞こえる)

SE: 土を踏む音

「はあ……着きましたよ」

「今回は、たっぷり調教をしてくださるのですか……？  
うわあ、どんないやらしいことを体験できるんでしょう……楽しみです♡」

SE: 衣擦れ

「は、ああっ……いきなり服を脱がせて何をなさるんですかあ……？  
んんっ……あっという間にブラジャーまで外されちゃいましたあ……」



「んうう.....おっぱい、あまり大きくないですが、どうでしょう.....？  
敏感そうで可愛い、ですか？ 嬉しいです.....」

「んっ、大きい手です.....おっぱい、全部包まれちゃいました.....」

「あんっ！ 乳首摘ままれたらっ.....んんっ.....ビリビリ、しますっ.....！  
はう、んんっ、ああっ.....あううっ.....」

「ひ、ううっ.....あふっ、んんっ.....どんどん乳首、硬くなっちゃいます.....  
あ、ああっ.....ひ、ううっ.....ああんっ.....」

「あ、あああっ.....！ 両手で、そんなに乳首いじられたら、あ、ああ、ああっ.....  
頭が、真っ白に、なって.....んっ、は、ううっ.....」

「はあっ、はあっ.....もう、おまんこ.....濡れちゃってるの、わかりますっ.....  
はあ、ん、んんっ.....きゅんきゅんっして.....はあ、あああっ.....」

「はうんっ！ パンツの上から.....なぞるなんてえ.....  
ふ、ああっ.....あんっ.....布越しなのに、いやらしい音、聞こえますっ.....」

「ん、ああっ！ はあうんっ.....そこ、はっ.....クリトリス、ん、あ、ああっ.....！  
直接じゃないのに、こんなに気持ちいいなんて.....あんっ、ああっ.....！」

「んんっ！ はああっ、あああっ！  
指が、パンツの中につ、ひ、うううっ！」

「ひ、ああああっ、刺激が、全然違いますっ.....！  
ああっ！ あんっ！ 乳首とクリ、同時に直接責められたらっ.....！」

「んんんううっ、あ、あ、あああっ！  
身体が、ビクビク勝手に痙攣しちゃいますっ、ん、ふ、あ、ああっ！」

「あううっ、んっ、んっ、このままじゃ.....  
い、イっちゃいますっ.....！ は、ああああんっ、あああっ！」

「はああああああああああああっ.....！」

「あううっ、んっ.....んんっ.....はあっ、はああっ.....  
あふうーっ.....イっちゃい、ました.....♡」

SE: 指入れ音

「うううんっ！？ そんなっ.....イったばかりなのに、  
指、入れられちゃったらっ.....！ あ、あっ、あああっ.....！」

「は、あああっ.....くちゅくちゅって音、は、ああんっ.....  
す、すごっ.....はうっ、う、んんっ.....」

「また、すぐにイっちゃいますよおっ……！ あ、んんっ！  
ふ、ええ？ 今度は、我慢しなきゃダメって……？ そ、そんなあっ……」

「あ、あぁっ……でもっ……あんっ……  
あなたの言うことなら聞きますう……頑張って、我慢しますう……！」

「んっ、あぁっ……指のピストン、おちんちんとは全然、違う感覚ううっんっ……  
はあぁっ……あぁあんんっ……！」

「こんなことされたらっ……欲しくなっちゃいますうっ……  
んっ、はぁっ、あうっ、んんっ……」

「ふええっ……何が、欲しいの？ って……そんなのっ……  
そんなの、決まってるじゃないですかあぁっ……！」

「あ、あぁっ……あなたの、太くて硬い……んっ、あぁっ……  
立派なおちんちんですっ……♡」

（指の動きが激しくなる）

「はあんっ！？ あ、あ、あぁっ！  
そんな、かき回されたら、あんっ、ひっ、うっ、んん、んんううっ！」

「あ、あんっ、ちゃんとおねだりできたご褒美って……  
あ、あんっ、そんなあっ……あんっ、ふ、あぁっ！」

「ごほうびならっ、んっ、あぁっ、おちんちん、ぶち込んで欲しかったですうっ♡  
んっ、んっ、はぁっ、あ、あぁっ！」

「あぁっ……で、でもっ……んっ、はうっ、あぁっ……  
手マンも、ひ、あぁっ、たまらない、ですううっ……！」

「んっ、んっ、乳首も、さっきみたいになっ、いっぱい責めてくださいっ♡  
はあーっ、あんっ、ふ、あぁあーっ……♡」

「んひいいんっ！ それ、それですっ……♡  
乳首、んっ、あぁっ、摘ままれたり、くにくにされたりしながら手マン、イイっ♡」

「あぁあんっ、まだ、おちんちん、入れてもらえないならぁっ……  
指、二本にしてもっともっとうっ、はあんっ、かき混ぜてくださいいいっ」

（指二本）

「んっ、ふ、あぁあぁあぁあぁっ～～♡ 指いつ、きたぁっ……♡  
はあ、あぁあぁっ、しゅごっ……う、ううんっ……広げられてっ、んっ、んんっ♡」

「はぁっ、はあぁっ、もう、パンツっ……  
愛液がぐしょぐしょになってっ……はぁっ、あううっ、汚れちゃってますううっ……」

「お願いですっ……パンツ、脱がせてくださいっ……  
巫女服着たままなのに、ブラもパンツも脱いだ、エッチな楓にしてくださいっ……♡」

SE: パンツ脱ぎ音

「んっ……はあっ……脱いじゃいましたああっ……  
あ、あっ……エッチなお汁、ぼたぼた垂れてきてますう、ああんっ……」

「んんっ、はうっ……これであなたも、  
もっとおまんこ、いじりやすくなりましたよね……？」

「えへへっ……はあ、ああんっ……  
もっと、調教してくださいっ……♡」

「んうっ……あ、ああっ……ああんっ……！  
パンツ脱いだらまた、感じ方が変わりましたあっ……んっ、ふああっ」

「あうっ……私のクリトリス、物欲しそうに勃起して  
ヒクヒクしちゃってるの、分かりますうっ……ああっ……」

「手マンしながら、クリちゃんも親指でいじめてくださいっ……♡  
いっぱい……責めてほしいんですうっ……ん、んんっ……」

「はああっ、あ、あ、あ、あっ！  
あううっ、しゅ、ごっ……ひ、いつ、んんんんっ♡」

「あーっ、ああああっーあふっ、んんんっ！  
んっ、ああああっ、んんっ、ふ、あああっ！」

「きもち、いつ……♡ んっ、ふ、ああ、ん、んんんっ！  
あううっ、乳首も、もっと強く、コリコリしてほしいですうっ……♡」

「ああ、ああっ、あんんっ！ んんっ！  
気持ち良いとこ責められて、あああんっ、感じまくっちゃうっ……♡」

「んっ、んっ、あああっ、ごめんなさいっ……もう、私……  
我慢の限界ですっ……イキたいっ……イキたいんですっ……！」

「あ、あああんっ、イクの、許可してくださいっ……  
後でいっぱい、あなたのおちんちん、おまんこで気持ち良くしますからああっ♡」

「ふ、あああっ、ああんっ、お許し、ありがとうございますっ♡  
んっ、んっ、んううっ、はしたなくイクところっ、ちゃんと見ててくださいいいっ……！」

「あ、あ、あ、あ……ああっイクっ♡  
イクううっ……あああっ、すごい、来ちゃうううっ……♡」

「あっ、あっ、んっ、んっ、ふ、あ、あ、あ、あっ……！」

SE: 潮吹き

「ふああああああああああああんっ……！」

「ひゃあうっ……！ んっ、はあっ、あううっ……

私、クジラさんみたいになっ……潮吹きちゃいましたっ……ひっ、あああっ……」

「はあーっ……はあーっ……♡

おまんこが、パクパク物欲しそうに開いたり閉じたりしちゃってますっ……」

「今度こそ、あなたのおちんちんで、イかせてくださいますか……？」

はあうっ……嬉しいですよっ……」

「私を責め続けている間に、ズボンがはち切れそうになってましたもんね……

えへへ……♡ どスケベなおちんちん……かわいいです……♡」

「対面座位、ですか？ わかりましたあ……

密着しながらのセックス、気持ちよさそうです……♡」

SE: 土を踏む音

(対面座位の体勢)

「んっ……抱き着きながら、跨ってえ……

はううっ……顔が目の前に……恥ずかしいです……」

「私の表情、とろけそうでいらしいですか……？」

んむう……あなたが私をエッチにしちゃったからですよお……」

「責任、取って下さいね……？ えへへ……♡」

「それでは……入れちゃいます、よっ……

んっ、んんううっ……んんっ、ズブズブ、飲み込んでいきますうっ……！」

「昨日まで、処女だったのにい……はあっ……

あなたの形に、広がっちゃったんですね……あああんっ……！」

「んううっ……♡ 奥までぴったり、んんっ、入っちゃいましたあ……♡

はーっ……はあーっ……入れただけで、軽くイっちゃいましたよお……♡」

「指もいいですが、やっぱり……おちんちんが最高、です……

はあんっ……んっ、硬くて熱くて……たくましいドクドクが伝わってきますっ……」

「じゃあ、動かしますよおっ……んっ……はあっ……あんっ……

んううっ……私、いっぱい濡れちゃったからっ……音がえっちい……♡」

「ぬるぬるおまんこがっ……あああっ……ガチガチおちんちん……

ぴっちり包み込んでっ.....あんっ.....はあっ.....」

「出たり入ったりするたびっ、んっ.....はあっ.....  
すごい、感じちゃいますうっ.....んう、はあっ.....あんっ.....」

「んうっ.....はあっ.....やみつきになっちゃいそうですっ.....  
んっ、これえっ.....♡」

「うっとりしながら、感じてるあなたの顔が目の前にあってえ.....  
んっ、んんっ.....ラブラブ子作りセックスって感じがしますうっ.....♡」

「はあ、ああんっ.....昨日みたいに.....いえ、昨日よりもっ.....  
濃い精子っ.....子宮の奥まで、いっぱい注いでくださいね.....♡」

「あんっ、んんっ.....はうっ.....腰を動かすたびにっ.....  
んんうっ、おまんこの中で、ああっ.....ビクビク震えて.....」

「んっ、んんっ.....気持ち良く、なってくれてる証拠ですねえっ.....♡  
はあっ.....あんっ、んっ、はうっ.....私も、気持ち良いですっ.....♡」

「んっ.....腰の動き、少し変えて見ますねっ.....  
上下だけでなく.....前後に、あんっ、してみたりっ.....」

「はあっ、あうっ.....んっ.....この動き、男の人の腰振りに近くてっ.....  
ああんっ.....すごく、いやらしいですっ、う、んんんっ.....」

「どうですかっ.....？ 巫女が、自分に跨ってっ.....はあっ、ううっ.....  
エッチな腰振りする姿っ.....んっ、お気に召して下さいますかっ.....？」

「あはあっ.....♡ ギラギラした目になってますっ.....  
んっ、あなたも、すごく興奮してるんですねっ.....♡」

「う、ううんっ.....はあっ.....私もっ.....オス全開のその目っ.....  
ゾクゾクしちゃいますっ.....あ、あああっ.....♡」

「動物になって、あんっ、ああっ.....  
本能のままに、あっ、交尾してるみたいでっ.....んっ、んっ」

「あんっ、腰振り、止まりません、んっ.....こんなはしたない姿っ.....  
あんっ、あなた以外には、見せられませんっ.....♡」

「あああっ.....あんっ、はあっ、んっ.....  
今度は、ぐりんぐりんって回しながら、おちんちん擦り付けてみましょうっ.....♡」

「んんうっ、はうっ、んっ.....ああっ.....これも、またっ.....  
気持ち良さが違って、ひいっ.....んっ.....あああっ.....！」

(グラインドに夢中になる楓)

「あうっ、んっ、はあっ……はあっ……んっ♡  
んんっ、あうっ……んっ、んっ、あうっ……あああっ……♡」

「は、ううっ……すみませんっ……夢中で腰を動かして……  
自分ばかり気持ち良くなっていました……」

「無我夢中になってる私を見てると、興奮する……？  
はあんっ……恥ずかしいですっ……♡」

「そ、それじゃあ……中出しセックスに向けて……  
もっともっと乱れても、受け入れて下さいますか……？」

「……ふふっ、それじゃあ……  
あなたにぎゅうってしがみついて、もっと激しく、動かしますよおっ♡」

(抱き着く)  
(獣のように腰を振り、感じ始める楓)

「あんっ、あっ、あんっ！ はあっ、んうっ、んうっ！  
思いっきり、腰打ち付けてっ……ん、おおっ、感じまくっちゃいますうっ♡」

「はあっ、あっ♡ おっ♡ んううっ、ふ、おっ♡  
しゅ、しゅごっ……ぱちゅんぱちゅんって、エッチな音っ、響いてますう！」

「はあっ、あうっ、んっ、あああっ、きもち、いいっ♡  
お、んっ、んんっ、ああっ、おっ♡」

「はあっ、ううっ、んっ、あっ……あううっ！  
このおちんちん、いいっ、いいっ♡」

「んっ、耳元でもっと、下品に喘いで、おっ♡ 下品な言葉を言ってほしいですかあっ？  
あふっ、んんっ、とんでもないど変態さんですねっ♡ あ、あああっ♡」

//演技指定：耳元で囁き

「いいですよっ……んんっ、ふ、ああっ……  
あなたのためにならっ、あんんっ、エッチな命令、聞いちゃいますうっ！」

「おっ♡ 楓の、おまんこにいつ……んんっ♡  
あなたの極太おちんぽっ、んんうっズズズっ、してるんですうっ♡」

「ああっ—ああ～っ……！ わらひ(わたし)っ……神様にお仕えしてるっ  
神聖な巫女なのになんて……あううっ！」

「おっ、ひっ、いいっ……♡ 自分から腰振って  
おちんぽでひいひい言っちゃう、ああっ、いやらしい娘なんですうっ♡」

「あっ、ああっ、きもちいいっ、きもちいいっ♡  
もう、頭の中、あなたのおちんぽでいっぱいですっ、ああ、あ、ああっ♡」

「んんっーっ♡ あうっ、あっ♡ キツキツおまんこにっ……  
赤ちゃんの種っ、たぶたぶになるまで注いでくださいっ♡」

「あうっ、おっ、んっ、はああっ、あんっ、あっ、おっおっ♡  
んっ、うっ、ああっ、あううっ、ふ、んっ、あああっ♡」

「あううっ、イキそうですかっ？ あんっ、ああっ！  
いいですよっ……イってくださいっ♡」

「私の子宮口も、もうっ、んんっ、精子欲しくてっ！  
おっ、んっ！ 降りてきて、準備してますうっ♡」

「あんっ、あ、あっ！ もっと激しく腰振りますからあっ、  
あ、あ、おっ、あ、あっ！ 何も考えず、射精して下さいっ！」

「私もっ、イキますっ♡ 中出しされながら、イっちゃうんですう……！  
あんっ、んっ！ つううっ！ はあっ♡ うんっ、おっ♡ おっ♡ おおっ♡」

SE:射精

「イクううううううううううううううっ……！」

「ふ、おおおっ……んっ、はあーっ……ふっ……ああー……んっー……♡  
おちんぽっ、おまんこの中で、脈打ってっ……はあっ、あああーっ……♡」

「あひっ……ううっ……♡ 中出しされながらっ……あああっ……  
イクの、っ最高っ……♡ はーっ……あああーっ……♡」

「種付けおちんぽセックス……はあー……ああっ……きもち、いいっ……♡  
ああんっ……メスに生まれて、よかったですうっ……ああーっ……んんっ♡」

「あふっ、んっ……まだ、ビクビク、止まらないっ……♡  
ああっ、あんっ……はあー……はあっー……♡」

「ひゃ、ああっ……おちんぽ、抜かれちゃった……  
あううっ……精子、垂れて、来ちゃいますうっ……」

(だんだんフェードアウトしていく)

「あ……あふ……ん……私、はあ……はあ……  
あ、あれ？ なんか、目の前が……暗くなって……  
ふえ……え……はー……あふ……」

「はあー……はあ……はあ……ああ……」

## Ⅱトラック3

SE: 鳥のさえずり

SE: ほうきを掃く音

(吐息のみからスタート。茫然とした感じで掃除している)

「……………」

「私……やっぱり最近、おかしいです……。  
昨日なんて……は、恥ずかしい姿のまま林の中にいて……」

「全身がドロドロでびしょびしょで、汗にまみれていました……。  
お股の痛みはなかったけど、そのかわり……んんっ」

「はあ……はあ……きゅんってして……  
んっ、なんだか……体が熱くて、変な感じに……はあ、ああ……」

「そうです。  
あの人に来てから……おかしくなってしまったんです……」

SE: 砂利を踏みながら近づいてくる音

「っっ！ あなたは……」

「え……話があるから、林の中に行きたい……？  
す、すみません……それは出来ません」

「えと……何故かわからないけど、行ってはいけない気がして……  
……あれ……？ でも……行きたい気も…し」

(時間をかけて葛藤しながら)

「あ、あの……えと……  
や、やっぱり……行きます……」

「どうして……拒否しなきゃ、いけない気がするのに……  
身体が……言う事を……」

「本能が、あなたに付いて行けって……うう……」

(場面転換)

SE: 林の中と小鳥のさえずり

「また、ここですか……いつもここに来ると、  
いつも記憶が飛んでしまって……」



SE:土を踏みしめる音  
(いきなり抱き着かれてキスをされる楓。舌は入らない)

「んんっ！？ ちゅうっ……ちゅぷっ、んんうっ！ ちゅっ、ちゅっ……  
んぷああっ！ き、キスなんて……！ いきなり何をするんですか……！」

「え……？ ずっと前から、私のことが好きだった……？  
ど、どういうことですか？」

「遠くから見ていて、気持ちの伝え方がわからなかった……？  
えっと、じゃあ……私が記憶を失ったのは、あなたが何かしたからですか？」

「気持ちが暴走して、つい、悪戯をしてしまった……？  
い、悪戯って……えっと、どういう……？」

(キス、は恥ずかしくて若干はっきり言えない楓)

「あのう……よく分からないのですが、気持ちはとっても嬉しいです。  
で、でもその……いきなりキスをしてきたり、悪戯なんて……」

「あんまり、良くないと思いますよ……？  
合意なくそんなことされると女の子は、びっくりしちゃいますから」

「ふえ？ それなら、合意の下でもう一度キスをさせてほしい？」

「そ、そんな……。で、でも……もう私のファーストキス……  
さっきあなたに奪われちゃいましたし……うむむむ……」

「ええと……一度だけ、ですよ？ 絶対、ですからね？」

「ん……ちゅっ……はい、おしまい……んんっ！？  
んじゅっ、んむうっ！ ちゅれろっ、れろっ、んんっ！」

「れろろっ、んじゅっ、んっ！ んむあゆ、そんなっ、これ、ディープキスっ……  
んむあっ、れるるっ、んじゅっ、ちゅぷうっ……！」

「んむうっ！？ んっ……んあっ、やっ……  
なに、してっ……はむっ、ちゅうっ、んあっ、やっ……！」

「胸を揉むなんて、んっ……聞いてませんっ……！  
ひっ、んちゅっ、ちゅるるっ……んっ、んんっ……んちゅうっ……」

「んぷあっ……はあっ……はあっ……あれ……？  
う、うそっ……んっ……知らない男の人から、胸を揉まれて、んんっ……」

「私……きもち、よくなってます……ふえ……え……？ どう、して……？  
ああっ、やっ……そんな激しく揉んじゃっ……ああっ……」

SE:服やパンツをまさぐる音

「ひ、あああっ！？ どこを触っているのですかっ！？  
そ、そこは女の子の大事なところでっ、だ、だめっ……やっ、はあっ、ああっ……」

「んっ、んっ……ふ、ああっ……あれ……？  
身体が、熱いっ……んっ、ああっ……」

「きゅんきゅんしちゃうっ……んっ、んっ、ああっ……  
あっ、あうっ……どうして……？ こんなことされるの、初めて、なのになっ……」

「あれっ……？ は、はじ、めて……？ あれ、あれ……？  
でも、私……この感覚、知ってます……ああっ……あんっ……」

「んんっ……くちゅくちゅって、この音もっ……  
はうっ……何度も、聞きました……いつ……？ んっ、どこで……？」

「んっ、ああっ……わからないよおっ……  
私、どうしちゃったの……ふ、あ、ああっ……」

「ああっ……はうっ……んっ、ああっ……やあっ……  
んっ……私、変な声、出ちゃってます……は、あああっ……」

「あうっ……はあーっ……んっ……はあーっ……  
もう、濡れてる……？ ふ、え……、なんで、なんでえ……？」

「お願いします……もう、やめてください……  
はっ……神社のお勤めをしないとです……ううっ……」

「こんなことしていたら……んっ、お父様に……神様に、叱られちゃいます……  
あっ、はあっ、はあっ……巫女、失格です……！」

SE:指パッチン

SE:洗脳音(いつもとはちょっと違う感じ)

「くっ……ううっ……！？」

「あああっ……！ 身体が、疼くっ……んんっ……  
私……どうしちゃったの……！」

「いつもは、脳まで催眠をかけるけど、今日は身体だけ……？  
な、何を言ってるんですか、あなたは……！？」

「昨日みたいに、対面座位で愛し合おうって……え、え？  
どういう……あっ……身体が、勝手に……！」

「や、やだあっ……パンツ、脱いじゃうっ……」

んんっ……や、いやあっ……！」

SE:土を踏みしめる音

(対面座位になる)

「やだっ……ううっ……男の人に抱き着いて、脚を開くなんて……  
はしたない……はしたない、よおっ……」

「んっ……お股に、熱い、硬いのが当たって……  
ひいっ……！？ な、なんですか、これえ……！」

「わ、私が何度も味わった……お、おちん……ちん……？  
そんな！ 知らないです！ 私、あなたのなんて、知りません！」

「んっ、やっ……どうして、自分からお股に、私っ……」

(自分からちんちんを挿入する楓)

「んあっ、あ、あ、ああああんっ！」

「ひぐっ……ううっ……一気に、奥まで入れちゃった……  
ああうっ……エッチなんて……したことないのにな……」

「はあーっ……あっ、ああっ……どうして  
お股……きゅんってして……あんっ、喜んでるのお？ んんっ……」

(話している途中から主人公が突き上げてくる)

「今日は自分が動く？ え？ え？  
な、何を言って——んうっ！ あんっ！ ああっ！」

「あっ、あふっ、んっ、やっ、ああっ！  
なっ、なにこれえっ……んっ、はうっ、ああっ、ああっ！」

「私っ……知らない男の人になっ、ひっ、ううっ！  
突き上げられてっ……ひんっ、ああっ、いやらしい声、出してるうっ……！」

「あっ……お願いですっ……やめてっ……ふっ、ああっ！  
やめてくださいっ、んっ、んっ、ああっ、やっ、お願いしますううっ！」

(突き上げ止まる)

「はうっ……とまったあ……はあーっ……はあー……はあー……  
今度はこのまま……私のお股から、これ……抜いてください……！」

「な……なんですか……ニヤニヤして……」

抜きたいなら自分でやってみろ？ そ、そんなの……簡単ですっ……！」

「んっ……んうっ……？ ふ、ええ……？  
あれっ……？ 私、体が、変です……う、うんんっ……疼いて……」

（楓の身体が勝手に腰を振り始める）

「あんっ……うそっ……私、勝手に、腰、動いてっ……  
んっ、ああっ……やっ……あんっ、あああっ……ふ、ああっ……！」

「いやっ……あんっ……どうして、嫌なのにつ……んっ！  
どうして、抜かないで、はうっ……エッチしてるのおっ……」

「やだあっ……！ とまんない……とまんないよおっ……！  
い、いやあっ……動かしたく、ないのにつ……ひっ、ううっ……」

「ああんっ……どうして、ああっ……んんっ、ふ、ああっ……！」

「淫乱な、楓だなんて……そんなっ、ち、ちがいますっ！  
あなたのかけた、催眠のせいですっ……んっ、ああっ、や、ああっ……！」

「はあんっ……ああっ……こんなに、いやあっ……  
あうっ、んっ……や、やめて……私、やめてえっ……」

「はあっ、あうっ、こんなはしたない私、嫌ですっ……  
そ、それなら、ああんっ……あなたに、動いてもらった方が、マシですうっ……！」

（主人公が腰を突き上げる）

「あんんっ！？ あっ、あっ！ あっ、ふ、ああっ！  
待ってましたと、言わんばかりにつ、ひっ、んっ、突き上げないで下さいっ……！」

「あんっ、ふ、ああっ……あひっ、ううっ、あ……あ、あっ！  
んっ、んっ、やあっ、感じたくないのにつ……んんっ、ああっ！」

「どうしてっ……気持ち良くなっちゃうのおっ、ああっ、ああんっ……！  
んっ、あうっ、んっ、ああっ……！」

「あんっ、あっ！ あんっ！ はげ、しいっ……！  
ひっ、んっ、んっ、あやっ、やっ、あんっ、ああっ、ああっ……！」

「ひっ、いいっ……！？ な、なにかっ……  
身体の中からっ……うっ、うんんっ……くるうっ……あ、ああっ！」

「いやっ、あああんっ、おかしく、なっちゃいますっ……！  
ひ、ううっ、とめて下さいっ、じゃないと私っ……このままじゃっ……！」

「あんっ、ああっ……はっ、ああっ……あんっ、あ、あ、あっ……！」

くるっ……ひいつ、ああっ、あ、あ、あああっ！」

(楓のみ絶頂)

「ふあああああああああああああつ……！」

「あふっ……あ……ああっ……はあっ……あうっ……  
ひっ……あああ……んっ、んんっ……はあーっ……」

「な、なんですか……今の……  
頭が、真っ白に……なって……はあっ、はああっ……」

「ふえ……？ 私、イっちゃったんですか……？  
そ、そんな……そんなはず、ないです……！」

「昨日までも、何度もイってた……？  
うそ……ああ、ああ……ひどい、です……！ ううっ……！」

(勝手に動き始める楓)

「あんっ！？ あんっ……私っ……また、勝手にっ……  
はあっ……う、ううんっ……ああっ……」

「ひ、いっ、んんっ……イった、ばっかりなのにつ……  
あうっ、腰、動かしちゃったらっ……はあーっ……ああっ……」

「頭が、おかしく、なっちゃいますっ……うっ、んんっ……  
あ、あああっ……はううっ……や、ああっ……！」

「やあっ、私、とめてっ……私、だめっ……あんっ……  
あ、あっ……あんっ、ううっ、いやああっ……」

「はうっ、そんなっ……私の、お股……  
きゅうきゅうって、あなたのを締め付けてるっ……んっ、ああっ」

「こんなの、私の、意思じゃないですうっ……んっ……  
腰振りと、一緒にっ……はあんっ、勝手にっ……あんっ……ふ、ああっ……」

「んっ、んううっ……ふえっ……  
精子を、欲しがってる……？ わ、私が、ですかっ……？」

「んっ、そんなはずっ……ありませんっ……  
知らない男の人の、精子なんてっ……欲しいはずがっ……」

「ふ、ああっ……？ すでに昨日まで、たくさん飲み込んだ……？  
そ、そんな……あうっ……それじゃあ、白いのは……あなたのっ……」

「ううっ……ひどい、ひどいですうっ……んっ、ああっ……

あうっ……あんっ、はあっ……」

「んっ……嫌なら、動くのをやめればいいなんてっ……  
そんな、あなたの催眠のせいで、んっ、やめられないんですうっ……！」

「あっ、ああっ……催眠は、既に、解いてる……？  
う、うそっ……じゃあ、あんっ、これは、私が……！？」

「ひうっ、認めたくないよおっ……こんなのっ……  
いやっ、あんっ……あっ、あふっ、んっ、んんんっ……！」

「あっ……はあっ、んっ……はあっ……  
くっ、ううっ……お股、熱くて、溶けちゃいそうっ……んっ、ああっ……」

（前後に腰を振り始める楓）

「ひやううっ……！ 腰の動き、勝手に変わっちゃいましたっ……！  
前後にっ、動いちゃうううっ、んっ、ふっ……あんっ……ああっ、やっ……」

「やっ……この腰振りっ……いやらしいですっ……  
んっ、やあっ……こんなの、いやあっ……」

「はあっ、ああんっ……んっ、んんっ、あうっ……んっ、んっ……  
あんっ、ああっ……あうっ……んんっ……」

「んんっ！ 中で、ぐんってっ……おつきくっ……  
はあっ、はあっ……な、なんですかその顔はあっ……」

「いや……んっ……興奮、してるんですか……？  
んっ、んんっ……こんなはしたない私を見て、興奮なんてしないでくださいいっ……」

（キスをされる楓）

「んむっ！？ ちゅっ……ちゅぱっ……ふっ……  
んんっ……あっ……あむっ……れろろっ……ちゆるっ、んんっ……ちゅぷっ」

「んれるっ……んむあっ……あんっ……んぷあっ……  
キスしたら、もっと締りがよかったなんて……そんなこと、ないですう……！」

「んちゅうっ、れるるっ、ちゅぷっ、ちゅぱっ……んっ……  
れろろっ、じゅ、ぢゅっ……ぢゆるるるっ……ぢゅぱっ！」

「はあっ、はあっ……やっぱり、キツくなった……？  
ううっ、違う、もんっ……あううっ……」

（お尻を掴まれる楓）

「ひうっ！？ おしり、そんなに掴まないでくださいっ……！」

何を、する気ですかあ……」

(お尻を掴んでもっと激しく打ち付ける主人公)  
(思わずしがみつく楓)

「んうっ！？ ひっ、あんっ！ お尻掴まれて、打ち付けられてるううっ……！  
はあっ、あ、あ、ああっ！？ あんっ！」

「うっ、ううっ！ あああっ！ 奥ッ、奥がああっ……あんっ！  
ひうっ、ぶつかって、おっ……おっ！」

「う、うそおっ……んんっ、おっ♡  
ぎもち、いいっ……！ はあっ！ あっ、あんっ！ ふっ！ ああっ！ おっ！」

「うっ、ううんっ、これっ……ああっ、しゅごっ……  
んっ、あっ、あっ、や、やめてえっ！ おっ！ おっ！ ああんっ！」

「はうっ……おっ……あんっ、んっ！ ひ、いいっ！  
ああうっ！ 気持ち良いとこ、当たっちゃうよおっ！ んっ、ああっ！」

「感じたくないのにいっ！ ああっ、おっ、おっ♡ 感じちゃうっ……！  
んんっ、はあっ！ ああっ！ あううっ！」

「いやあっ、やめてっ！ やめてっ！ んううっ！  
おかしくなっちゃうっ！ いやっ！ 知らない男の人のでっ！ おかしくなるうっ！」

「あ、あんっ、あ、あっ！ あんっ！ あっ！ ひっ！  
た、たすけっ……んおっ♡ おっ♡ ふ、ああっ♡ んんうおっ♡」

「ひぐうっ……イクっ……だめっ……だめだめえっ！  
イクのっ、いやあっ、あっ！ イっちゃうっ！ やっ、あっ、んんうっ、んおっ♡」

「な、中出しするんですかっ……！？ や、や、やっ！ あっ♡ らめっ！ らめらめえ！  
あううっ、お、お、おっ、んおおおっ♡」

SE: 射精

「んっふあああああああああああああああっ……♡」

//演技指導: 囁き

「んふああああっ……っあああっ……んおおっ……  
あっつい……♡ ドクドクっ……注がれますうう……！」

「知らないおちんちんにっ……中出しされながらっ……  
私、イっちゃってますうっ……は、ああっ……お……お……お……♡」

「あひっ……ひいっ……はーっ……はーっ……！」

これ……知ってるう……！ 私、何度も……はあーっ……♡」

「たまないよお……♡ 中出し……子作りセックスう……  
はー……はああ……♡ あ……あああ……♡」

「あなたのおちんぽに……私、メロメロにされちゃいましたあ……♡  
ああ、はあ……はあ……また、あなたと……子作りしたいですう……♡」

SE:土に倒れる音

「あひっ……ひんっ……おちんぽ……抜けちゃいましたあ……  
ああ……まだ……まだですう……もっと、もっと……欲しいよお……♡」

「はーっ……おちんぽ……はーっ……あなたの……おちん、ぽ……はあーっ……♡」

SE:指パッチン

「んっ……」

(声をだんだん遠ざけていく)

SE:土を踏みしめる音も一緒に遠ざかる

「あ、れ……私……こんなところで……何をして……ふえ……  
はあ……はあ……あれ……？ あれ……？」



## IIトラック4

SE:鳥のさえずり

SE:ほうきで掃く音

「はあ……いい天気ですね。  
今日も素敵な一日になりますように……」

SE:砂利を踏んで近づいてくる音

「あ、和菓子屋のおじいさま！ おはようございます。  
腰の調子はいかがですか？」

「……わあ、良かったです！ お祈りが神様に届いたんですね」

「ふえ……？ お礼のおまんじゅう？  
い、いいんですか？ もらっちゃって」

「えへへ、ではお言葉に甘えて……！  
今日はつまみぐいせず、お勤めが終わったらお部屋でゆっくり頂きます」

「ありがとうございましたおじいさま。  
また和菓子、買いにいきますね～！」

SE:砂利を踏んで遠ざかっていく音

「えへへっ……おまんじゅう、楽しみだなあ……。  
よ～し、美味しく食べるためにも、お勤め頑張らなきゃ！」

SE:砂利を踏んで近づいてくる音

(主人公が声をかけてくるが忘れていたので笑顔で対応)

「あ……おはようございます！  
あまりお見掛けしない方ですね……何かお困りのようですが、どうされましたか？」

「え？ 相談がある……ですか。  
わかりました……なんでしょう？」

SE:指パッチン

SE:催眠の音

「つつ……」

「安産祈願のご祈祷……おちんちんに、ですね……  
はい……！ では……あちらへ参りましょう……うふふふ……♡」

(おしまい)